marantz®

Model MA-9S2 取扱説明書

Monaural Power Amplifier

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご利用の前に、この取扱説明書を良くお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所にお問い合わせください。

目　次

安全上のご注意 1
使用上のご注意 4
付属品の確認 4
本機の主な特長 5
接続方法 6
　バイワイヤリング 7
　スピーカーシステムの接続について 7
　スピーカーコードの接続について 7
　バイアンプ（接続） 9
　スピーカーシステムの接続について 9
　スピーカーシステムの接続について 11
　BALANCED 端子について 11
　スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置 12
　ITU（国際電気通信連合） 12
　スピーカーシステムの接続について 13
各部の名称とはたらき 14
　前　面 14
　後　面 14
仕様・外観寸法図 15
　仕様 15
ブロックダイアグラム 15
　外観寸法図 15
故障とお考えになる前に 16
お手入れ 16
ステレオ音のエチケット 16
　保護回路について 16
保証・アフターサービスについて 17

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

■ 絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

△ 記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は指をはさまれないように注意)が描かれています。

警　告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。

- この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から20cm以上、背面から20cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

警　告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

- 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  ーこの機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  ーこの機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  ーテーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注　意

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量(ボリューム)を最小にしてください。

注　意

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス＋とマイナスーの向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ご不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って処理してください。

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナスー端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。
- 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。

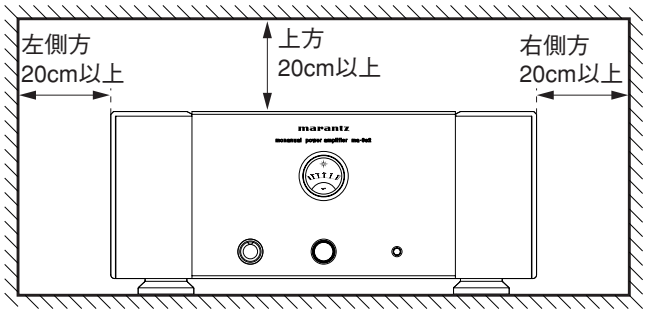
使用上のご注意

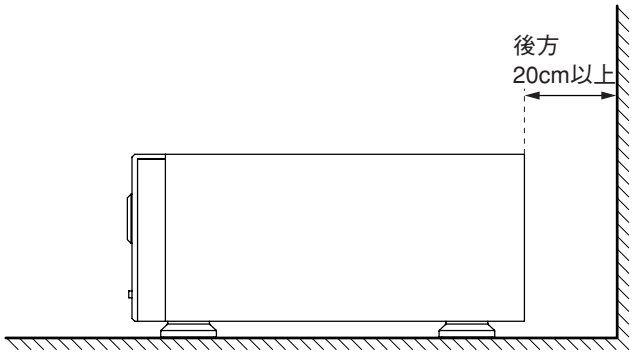
■ 次のような場所には置かない

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。





■ 上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

■ 使用中・使用直後に上面などの高温部には触れない

使用中と使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどのおそれがあり危険です。特に上面などの高温部には触れないでください。

■ ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流100Vをご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz地域または60Hz地域でご使用できます。

■ 2 組のスピーカーシステムを同時に使うとき

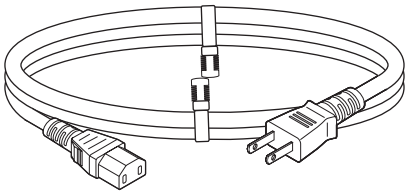
2組のスピーカーシステムを同時にお使いになるときは、スピーカーシステムのインピーダンスが 8Ω以上のものをお使いください。

8Ωより低いインピーダンスのものを接続しますと、保護回路がはたらき、正常な再生ができなくなることがあります。

付属品の確認

箱を開けたら、下記の付属品が揃っていることをご使用の前にご確認ください。

- AC電源ケーブル



- 保証書
- 愛用者カード
- 取扱説明書(本書)

本機の主な特長

■瞬時電流供給能力の向上

電流供給能力はパワーアンプのドライブ能力に直結してくる重要なファクターです。
同じパワースペックを持ったアンプでも瞬時電流供給能力の違いにより､スピーカードライブ能力は全く異なってきます。
MA-9S2は、パワーアンプ回路や電源、給電ライン等を徹底的に見直し、約 150A の瞬時電流供給能力を実現しました。

■フルバランス・モノブロック・パワーアンプ

パワーアンプの増幅回路をフルバランス構成のボルテージアンプ（電圧増幅回路）23dB ／パワーバッファーアンプ（電力増幅回路）6dB の 2 アンプ構成としました。
これにより、強力な磁気回路を持ったスピーカーからの逆起電力による影響を最小限に抑えることが可能となりました。

■電源部／パワーブロック部の徹底した低インピーダンス化

高ドライブ能力を支えるパワーバッファーアンプ用電源部にはインピーダンスが低く大電流供給を得意とする「コンデンサインプット方式」を採用。
大型トロイダルトランスや専用に開発した超低インピーダンスのブロック・ケミコン、極太内部配線ケーブルにより大電流供給を可能にしました。

■ 高速電流バッファーアンプモジュール「HDAM® SA」を搭載

マランツオリジナルのＨＤＡＭ® をさらに進化させたバッファーアンプ用セパレートモジュール「HDAM® SA」を搭載。
電流帰還回路の帰還インピーダンス低減を図り、回路のさらなるハイスピード化を実現します。

■ ボルテージアンプ用電源にチョークインプット方式を採用

ボルテージアンプ用の電源回路には、整流波形のリップル成分が極めて少なく、負荷変動にも強いチョークインプット方式を採用。
電源高調波も少ないため、電源一次側を介しての周辺オーディオ機器へのノイズを軽減します。
さらに電源一次側から侵入するノイズも低減し、ショットキーダイオード／ノイズキラー素子と相まって小信号回路へクリーンな電力を供給します。

■ 総質量約 7.0kg の大型アルミ押し出しヒートシンク

■ 厚さ 3.2mm ×２のダブルレイヤード・ボトムシャーシ

■ オールドマランツを彷彿させるセンターパワーメーター搭載

■ 他のアンプとのマッチングを考慮した 6 段階アッテネータ搭載

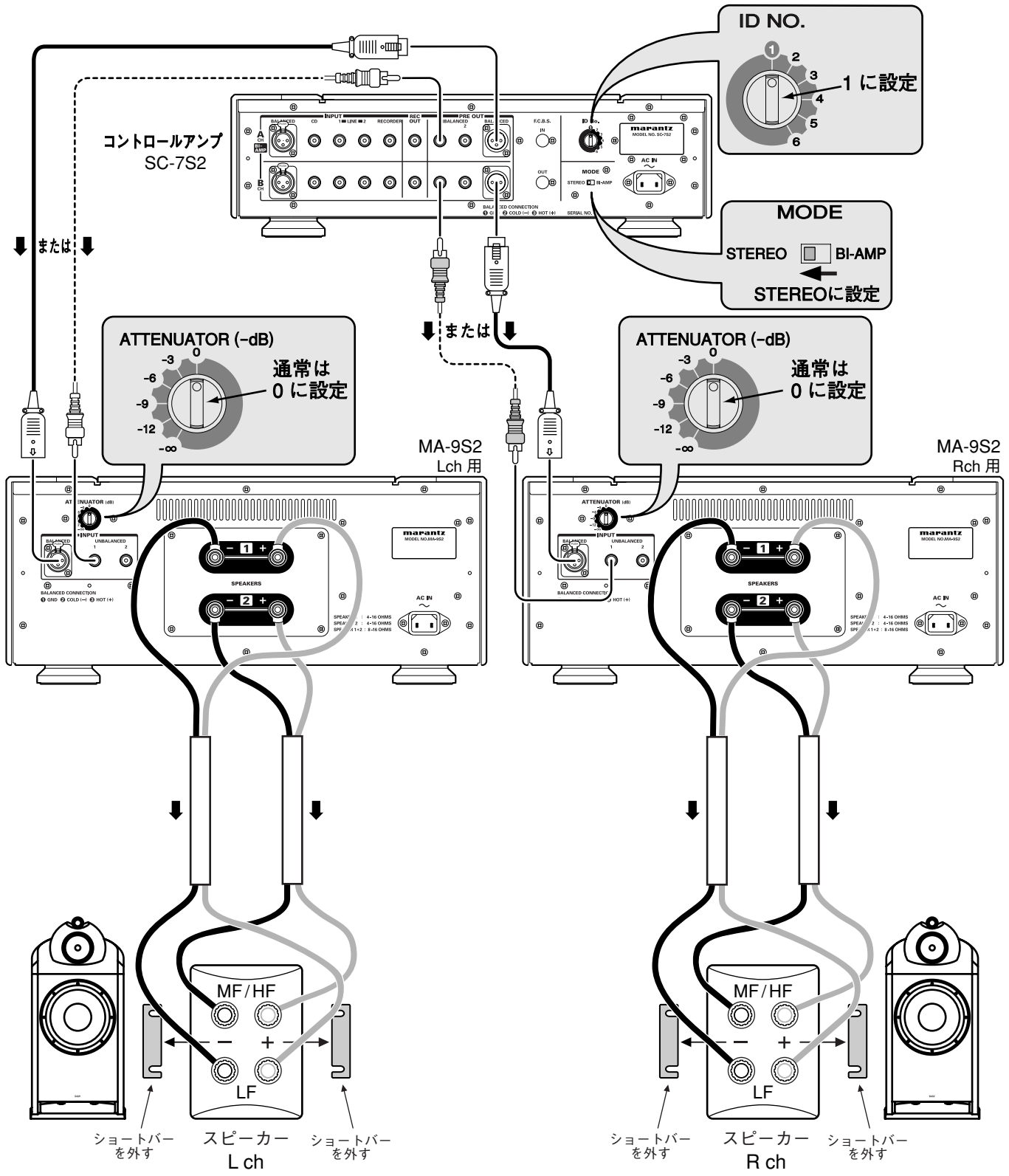
■ アンバランス入力端子に高音質、削り出し金メッキターミナルを使用

■ バイワイヤリング対応 WBT 社製スピーカー端子を 2 ペア搭載

接続方法

■ 接続例1　SC-7S2 1台 と MA-9S2 2台 での 2CH ステレオ バイワイヤリング

➡：音声信号の流れ



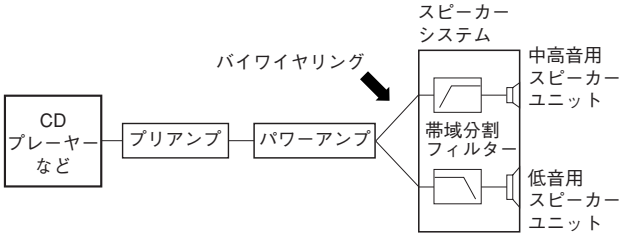
この接続ではコントロールアンプとパワーアンプ 間の音声信号は「アンバランス端子」同士または 「バランス端子」同士の接続が可能です。
どちらかの接続方法をお選びください。

接続例 1 ～接続例 4 は本機と当社コントロールアンプ SC-7S2 を接続する推奨例です。
全ての接続例はバイワイヤリング対応のスピーカーシステム使用を前提にしています。
なお、当社ステレオコントロールアンプ SC-7S2 の使用方法については同製品の取扱説明書をお読みください。
後面 各部の名称とはたらき → P14

本機と当社コントロールアンプ SC-7S2を使用するシステムで基本となる構成です。
また、SC-7S2 以外のコントロールアンプをご使用の場合もこの接続例を参考にしてください。

バイワイヤリング

音質を向上させる方法の一つで、低音用と中高音用のスピーカー端子に別々のスピーカーコードを接続します。
低音用スピーカーユニットで発生する逆起電力による中高音への干渉を少なくすることができます。



スピーカーシステムの接続について

■ バイワイヤリングに対応していないスピーカーシステムをご使用のとき

本機のスピーカー出力端子 1 または 2 のどちらか一方だけに接続してください。
また、インピーダンスが 4 ～ 16 Ω のスピーカーシステムをお使いください。インピーダンスが 4 Ω より低いと、演奏中に保護回路が働き、音が出なくなることがあります。

■ バイワイヤリングに対応しているスピーカーシステムをご使用のとき

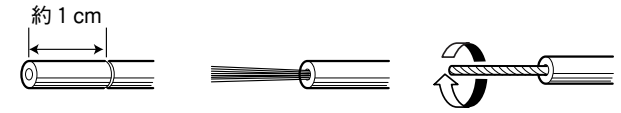
本機のスピーカー出力端子 1 と 2 に接続します。
また、インピーダンスが 4 ～ 16 Ω のスピーカーシステムをお使いください。インピーダンスが 4 Ω より低いと、演奏中に保護回路が働き、音が出なくなることがあります。

■ スピーカー出力端子の極性

本機のスピーカー出力端子には、プラス（＋：赤）とマイナス（－：白）の極性があり、またスピーカーシステムにも極性（＋と－）があります。
接続するときは、必ず同じ極性（＋と＋、－と－）に接続してください。

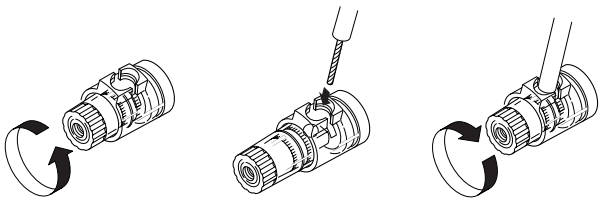
スピーカーコードの接続について

- スピーカーコードを接続する際は、ショートしないよう十分注意してください。
- スピーカーコードの被ふくは下図のように剥いでください。



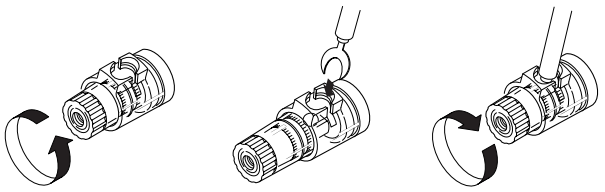
コードの端から約1cmくらいの所にカッターで切り込みをいれます　コードの端の被ふくをむきとります　芯線をよじります

- スピーカーコードとの接続



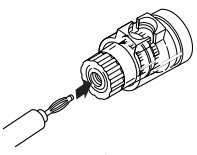
反時計方向に回し、ゆるめます　芯線を差し込みます　時計方向に回してしめます

- Y型端子（ラグ）との接続



反時計方向に回し、ゆるめます　Yラグ端子を差し込みます　時計方向に回してしめます

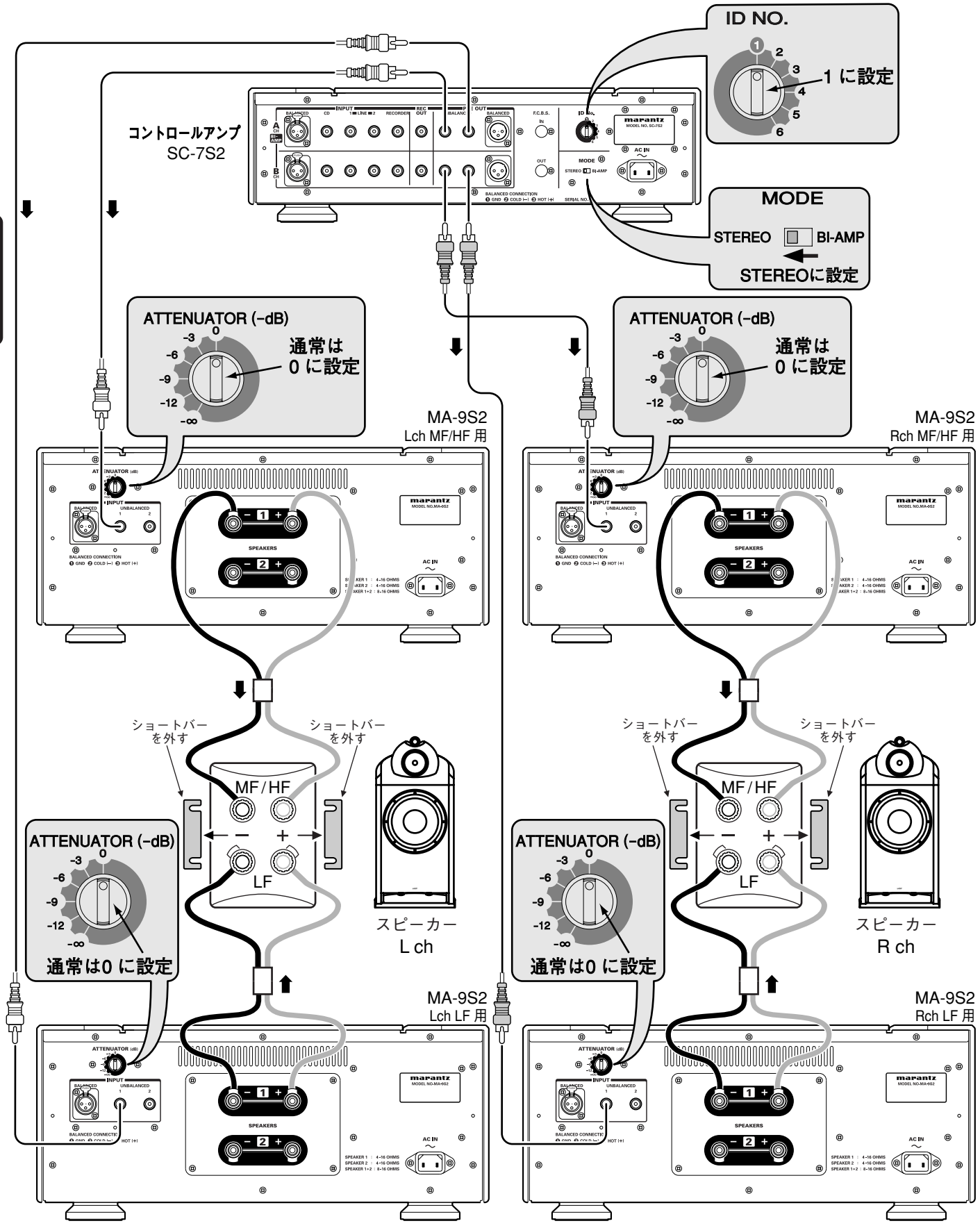
- バナナプラグとの接続



バナナプラグを差し込みます

■ 接続例 2　SC-7S2 1 台 と MA-9S2 4 台 での 2CH ステレオ バイアンプ接続
（バイアンプ対応スピーカーシステム使用時）

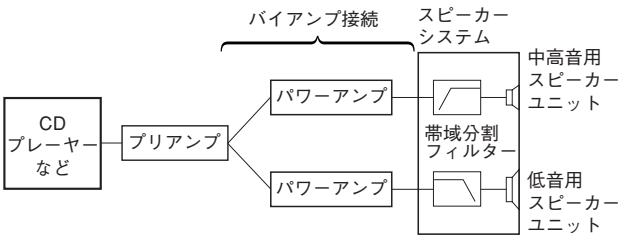
➡：音声信号の流れ



接続例１をバイアンプ接続に発展させ、低音用（LF）スピーカーユニットと中高音用（MF/HF）スピーカーユニットを別々のパワーアンプで強力にドライブします。

バイアンプ（接続）

バイワイヤリングを発展させた接続方法で低音用と中高音用に独立したパワーアンプを使用します。
下図のような接続をバイアンプ接続といい、Ｐ８の接続例２がそれに該当します。
バイアンプ接続することで、パワーアンプの負担が軽くなると同時に高音と低音の干渉（低音用スピーカーユニットの逆起電力の影響など）がなくなり、音質的に飛躍的な改善が期待できます。



注意

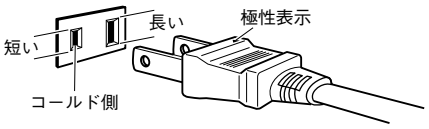
この接続例（SC-7S2が「ステレオ」モードの時）では、SC-7S2とMA-9S2はUNBALANCED（アンバランス）接続のみ可能です。 BALANCED（バランス）接続できません。

スピーカーシステムの接続について

- 本接続例の場合、スピーカーシステムのスピーカー端子部 ショートバーは必ず外してください。 そのまま使用するとアンプが故障する原因となります。
- 接続するスピーカーシステムは、インピーダンスが4～16Ωのものをお使いください。 4Ωより低いインピーダンスのスピーカーシステムを接続すると、演奏中に保護回路が働く場合があります。
- 本接続例はスピーカーシステムがバイアンプ接続に対応している必要があります。 バイアンプ接続に対応していないスピーカーシステムを使用するとアンプの保護回路が働き音が出なくなったり、アンプが故障することがありますので十分にご注意ください。
  ご使用のスピーカーシステムの取扱説明書をお読みいただくか、その製造メーカーにお問い合わせのうえお確かめください。

電源コードの極性

家庭用コンセントの交流電源には極性があり、穴の短い方は「ホット側」、もう一方の長い方が「コールド側」です。
極性を合わせなくても正常に動作しますが、本機は電源の極性管理をしていますので、図のように電源コードの極性に合わせて接続することで音質が最良になるように設計されています。しかし、ご家庭の環境によっては極性を逆に接続した方が音質的に良いこともあります。実際に音質をご確認の上、最適な極性に接続することをおすすめします。

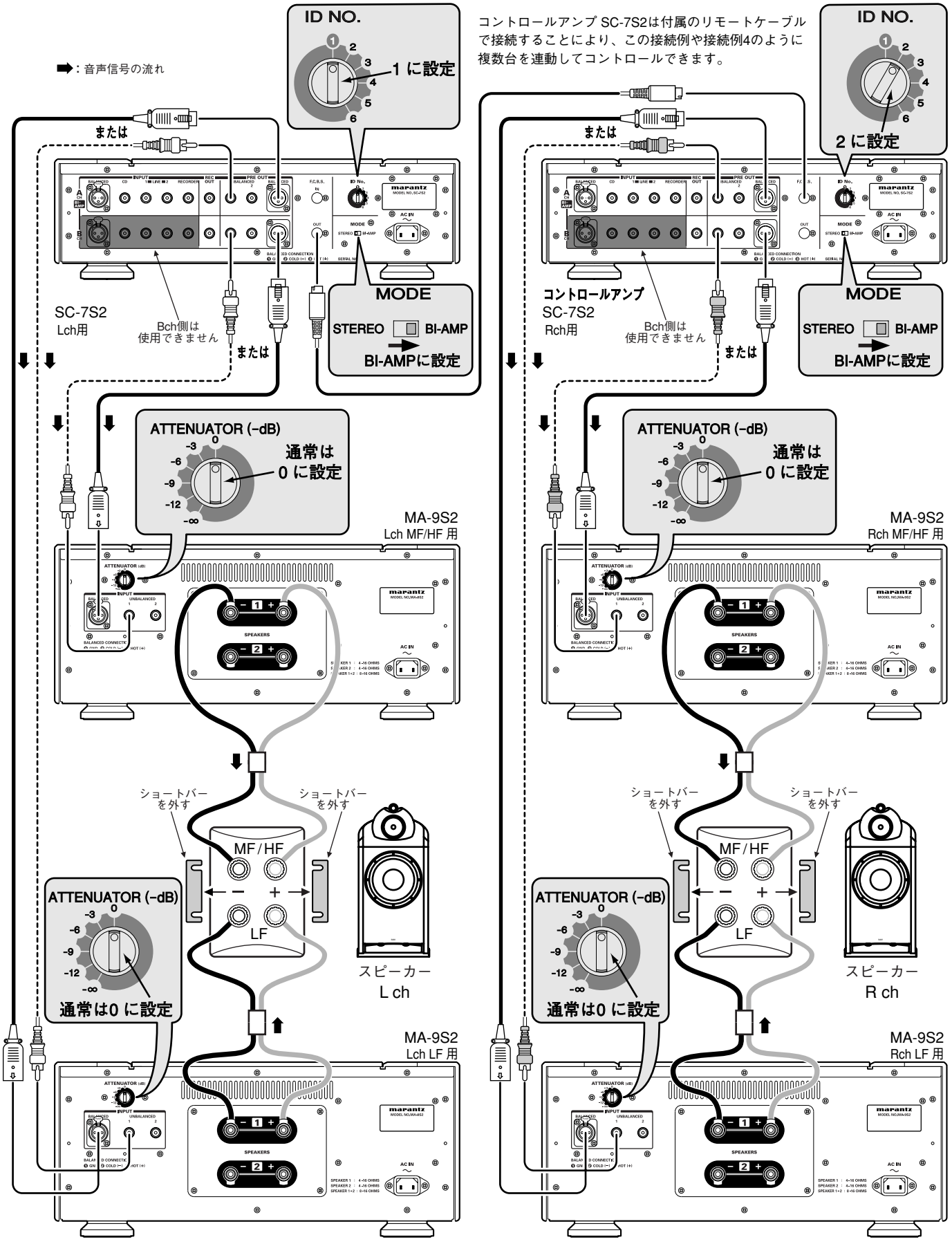


コンセントの穴の長さに違いが無い場合や、念のため極性を確認する場合は、市販の検電ドライバーまたはテスターをご使用ください。

注意

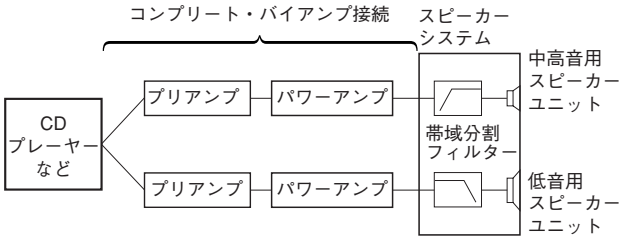
接続の際には必ず電源スイッチをOFFにしてください。

■ 接続例 3　SC-7S2 2 台 と MA-9S2 4 台 での 2CH ステレオコンプリート・ バイアンプ接続 (バイアンプ対応スピーカーシステム使用時)



この接続ではコントロールアンプとパワーアンプ 間の音声信号は「アンバランス端子」同士または 「バランス端子」同士の接続が可能です。
どちらかの接続方法をお選びください。

接続例２をさらに発展させ、コントロールアンプSC-7S2をもう一台追加し、プリアンプ部から中高音（MF/HF）用信号と低音（LF）用信号を独立させた「コンプリート・バイアンプ接続」です。



この接続例ではSC-7S2をモノラルプリアンプとして使用します。CD プレーヤーなどの出力端子部から左右のチャンネルを別筐体で分離。さらに中高音と低音はそれぞれ専用アンプが使用されています。
この結果、左右のチャンネルおよび中高音（MF/HF）と低音（LF）間での干渉を排除。スーパーオーディオCDなど次世代デジタルオーディオの高音質を忠実に再生します。

注意

SC-7S2のMODEスイッチを「BI-AMP」に設定した場合、SC-7S2のB CH 側の入力は使用できません。

スピーカーシステムの接続について

接続例２の「スピーカーシステムの接続について」（P9）をお読みください。

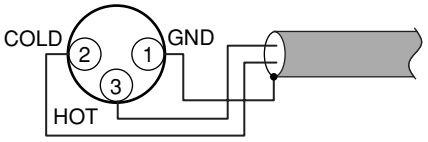
BALANCED 端子について

① 本機ではBALANCED端子に、プロフェッショナル用として広く採用されている、XLRコネクターを使用しています。 その特長は以下のとおりです。

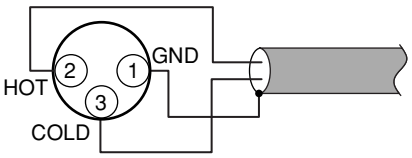
- 音楽信号を平衡信号で伝送するため、外来ノイズの影響が少ない
- 着脱ロック機構のため、コネクター部のぐらつきが少なく、信頼性が高い

② XLRコネクターの接続方法は、プロフェッショナル用としてタイプが二通りあります。

1. USA 方式（ ② PIN ＝ COLD ③ PIN ＝ HOT ）



2. ヨーロッパ方式（ ② PIN ＝ HOT ③ PIN ＝ COLD ）



③ 本機では、1.のUSA方式を採用しています。

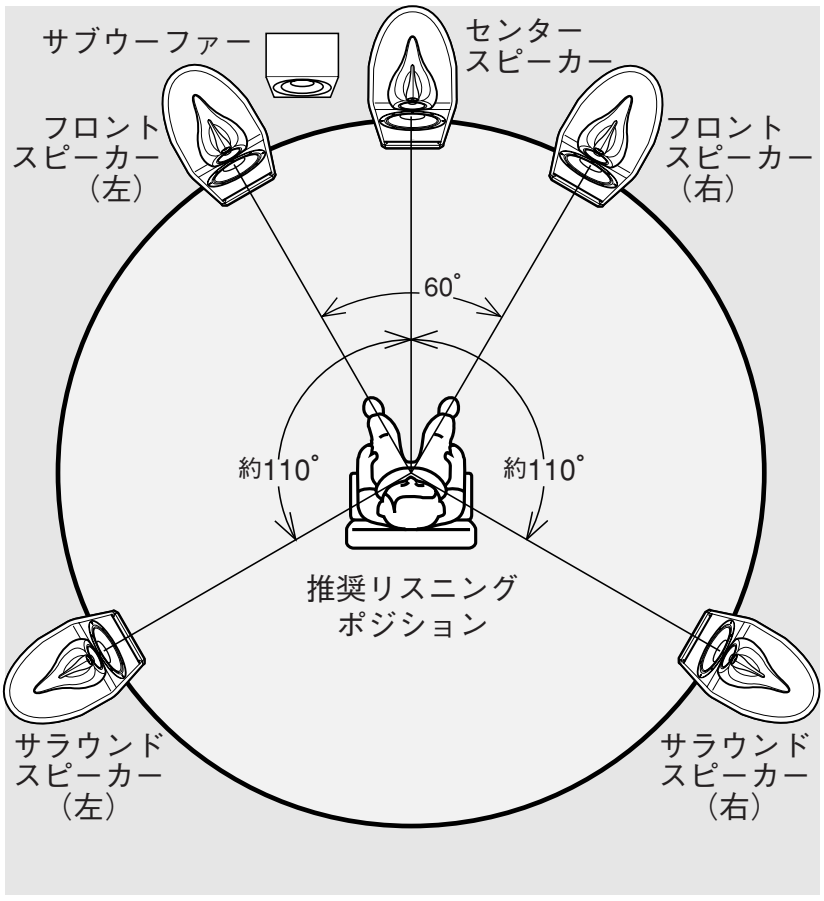
本機と、ヨーロッパ方式を採用しているプリアンプやコントロールアンプをBALANCEDケーブルで接続すると、信号が逆位相になります。

信号の位相を正しくするには、片側のXLRコネクター ②PINと③PINを逆になるようにつなぎ換えてください。

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連合）が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をお勧めします。
スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置の時に最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

- スーパーオーディオCDマルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は5チャンネル(3〜6も可能)が基本で、6チャンネル目としてLFE(サブウーファー用)が記録されていることもあります。
  記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側3本、サラウンド(リア)側2本、の同タイプ5本が基本です。
  下図のように、フロント(左右)、センター、サラウンド(左右)の各スピーカーシステムはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。
  スピーカーシステムの大きさが異なるときは、アンプ側で各チャンネルの音量を調整してください。
- 図中のサブウーファーの配置は説明のため、仮に配置したものです。サブウーファーはお部屋の環境に合わせて配置してください。 サブウーファーの接続や設定方法は、その取扱説明書をお読みください。



ITU（国際電気通信連合）

ITUは「International Telecommunication Union （国際電気通信連合）」の略で、国際連合（UN）の専門機関の一つです。ITU-Rはその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。
また勧告書のITU-R BSは“放送業務（音声）”に関する規格で、ITU-R BS.775-1はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。

■ 接続例４　SC-7S2 3 台、MA-9S2 5 台 での 5.1CH バイワイヤリング

この接続例は、マルチチャンネル音源に使用する基本的な例です。本格的なホームシアターから、SACD マルチチャンネルなどのピュア・マルチチャンネル再生まで、高音質な音場再生を実現します。この接続では、3 台の SC-7S2 が連動することで、全 5.1CH をコントロールできます。
なお、この接続例以上に、より高音質でお楽しみいただく接続として、
- 「SC-7S2 3台＋MA-9S2 10台＋アクティブサブウーファー」
- 「SC-7S2 6台＋MA-9S2 10台＋アクティブサブウーファー」

にもシステムの拡張ができます。

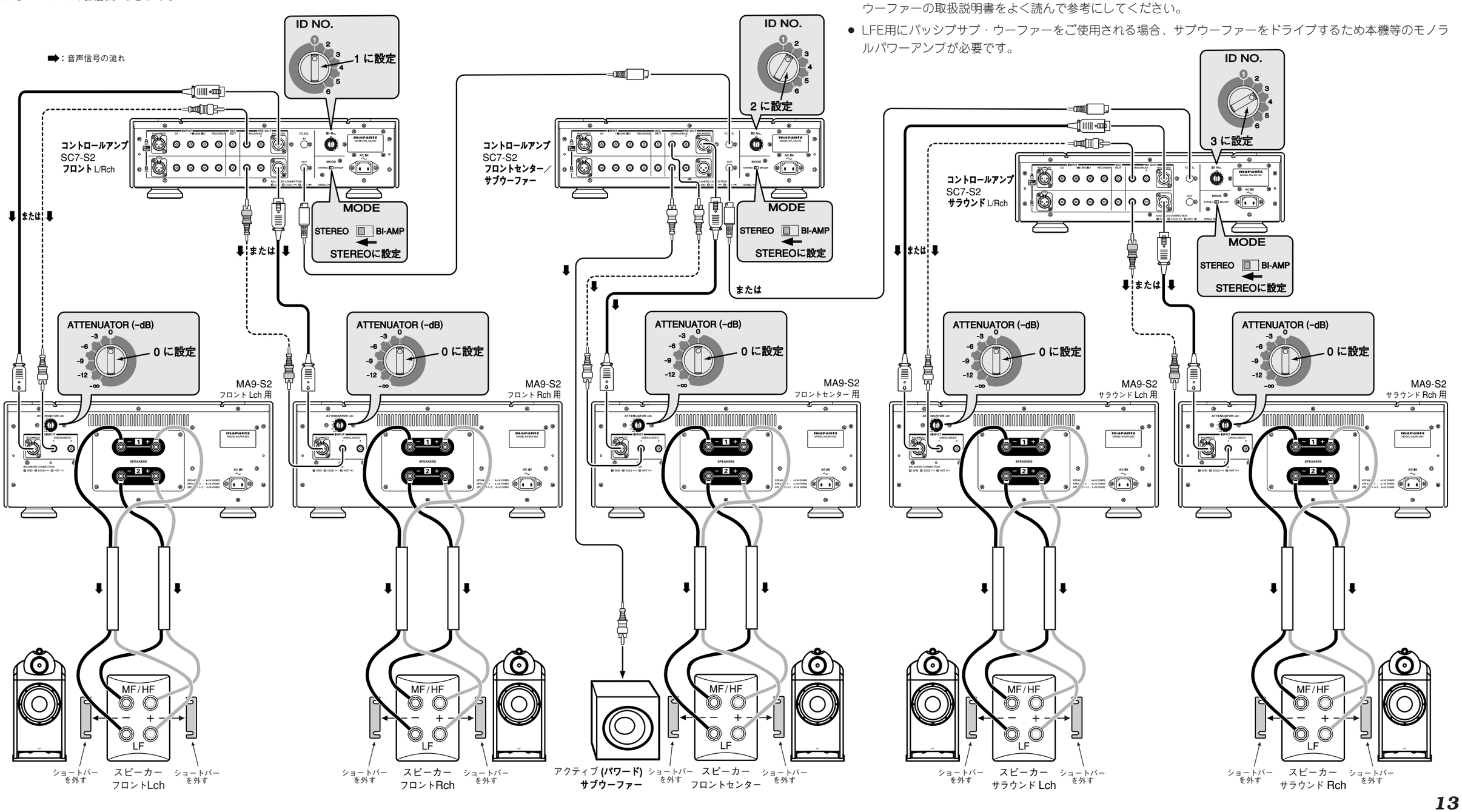
この接続ではコントロールアンプとパワーアンプ 間の音声信号は「アンバランス端子」同士または「バランス端子」同士の接続が可能です。どちらかの接続方法をお選びください。

スピーカーシステムの接続について

接続例1の「スピーカーシステムの接続」(P7) をお読みください。

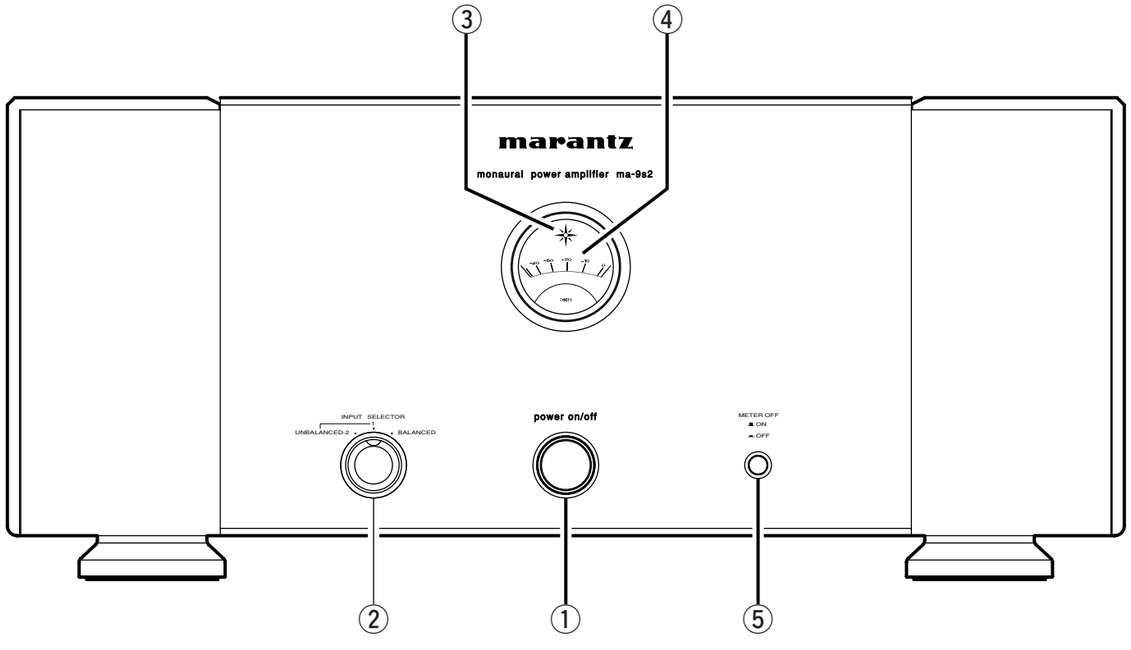
注意

- LFE用にアクティブ(パワード)サブ・ウーファーをご使用される場合、接続方法や音量調整についてはサブ・ウーファーの取扱説明書をよく読んで参考にしてください。
- LFE用にパッシブサブ・ウーファーをご使用される場合、サブウーファーをドライブするため本機等のモノラルパワーアンプが必要です。



各部の名称とはたらき

前　面



① POWER （パワー；電源）スイッチ

電源を ON/OFF するスイッチです。
スイッチを押すと、POWERインジケーター（青色）が点灯し、電源が入ります。
電源が入った状態でスイッチを押すと、POWER インジケーターが消灯し、電源が切れます。

② INPUT SELECTOR （インプットセレクター；入力ソース選択）つまみ

後面の入力端子に接続されているプリアンプからの入力を選択するつまみです。

③ POWER （パワー；電源）インジケーター

電源が入っていることを確認する表示です。
電源が入っているときに点灯（青色）します。

④ レベルメーター

出力レベル（dB表示）をアナログメーターで確認できます。
メーターの表示に対する出力電力は下表の通りです。

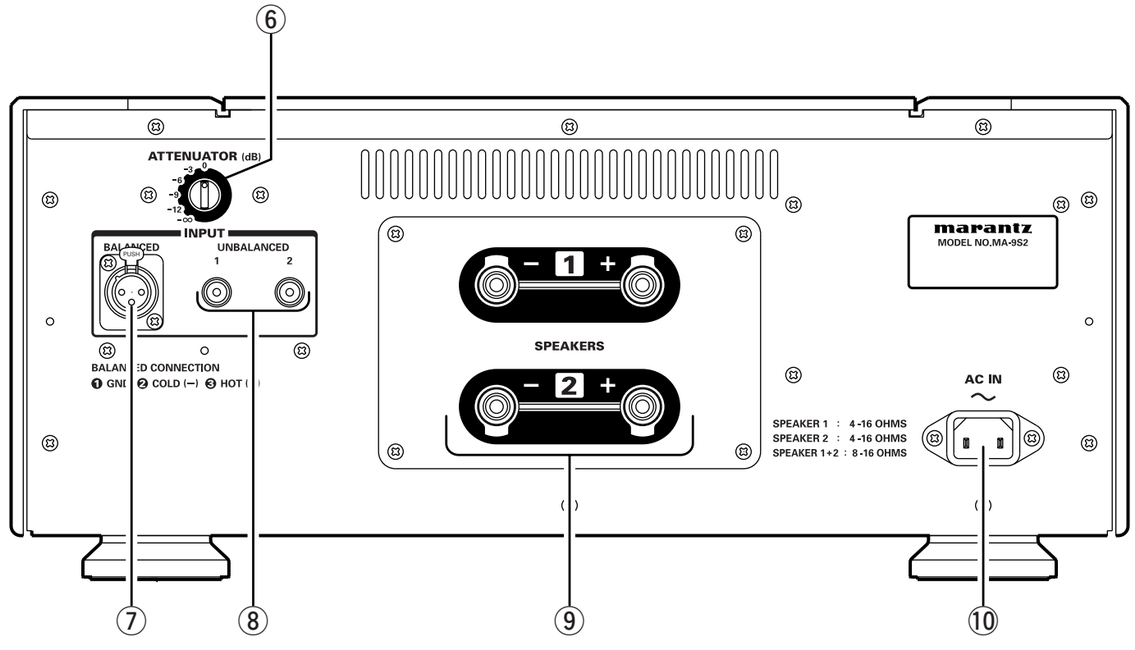
メーター表示 対 出力電力

表示値(dB)	8Ω負荷時(W)	4Ω負荷時(W)
0	300	600
-10	30	60
-20	3	6
-30	0.3	0.6
-40	0.03	0.06

⑤ METER OFF （メーターオフ）スイッチ

レベルメーターとメーター内部の照明をON/OFF できます。
スイッチを押すとメーターがOFF 状態になり、照明が消灯します。
メーターOFF 状態でスイッチを押すと、メーターがON 状態になり、照明も点灯します。

後　面



⑥ ATTENUATOR（アッテネーター；減衰）つまみ

入力信号レベルを0dBから3dBステップで－3、－6、－9、－12そして－∞まで減衰させることができます。
工場出荷時は0dBに設定されていますが、必要に応じてご使用ください。

⑦ BALANCED （バランス；平衡）入力端子

当社コントロールアンプSC-7S2などのBALANCED（バランス）プリアウト端子と接続します。
BALANCED 端子について →P11

⑧ UNBALANCED （アンバランス；不平衡）

1、2入力端子
当社コントロールアンプSC-7S2などのUNBALANCED（アンバランス）プリアウト端子と接続します。

⑨ スピーカー出力端子

スピーカーコードを接続するための出力端子です。
バイワイヤリング対応のスピーカーシステムを高音質でドライブするため、2組の出力端子を装備しています。
また、スピーカー端子には太いコードが接続でき、バナナプラグやYラグにも対応したWBT社（ドイツ）製の端子を採用しています
スピーカーコードの接続について →P7

⑩ AC 電源ケーブル接続端子

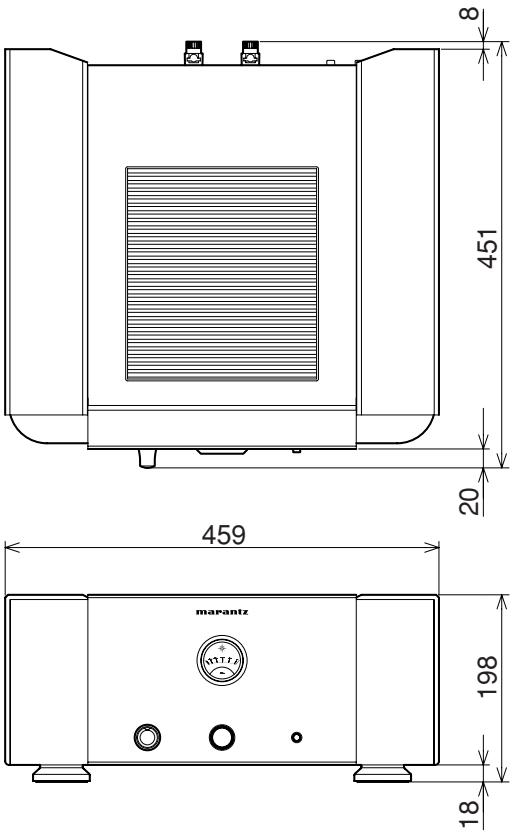
付属のAC電源ケーブルを使用して、ご家庭のAC電源コンセントに接続してください。
交流 100V の 50Hz 地域と 60Hz 地域で使用できます。

仕様・外観寸法図

仕様

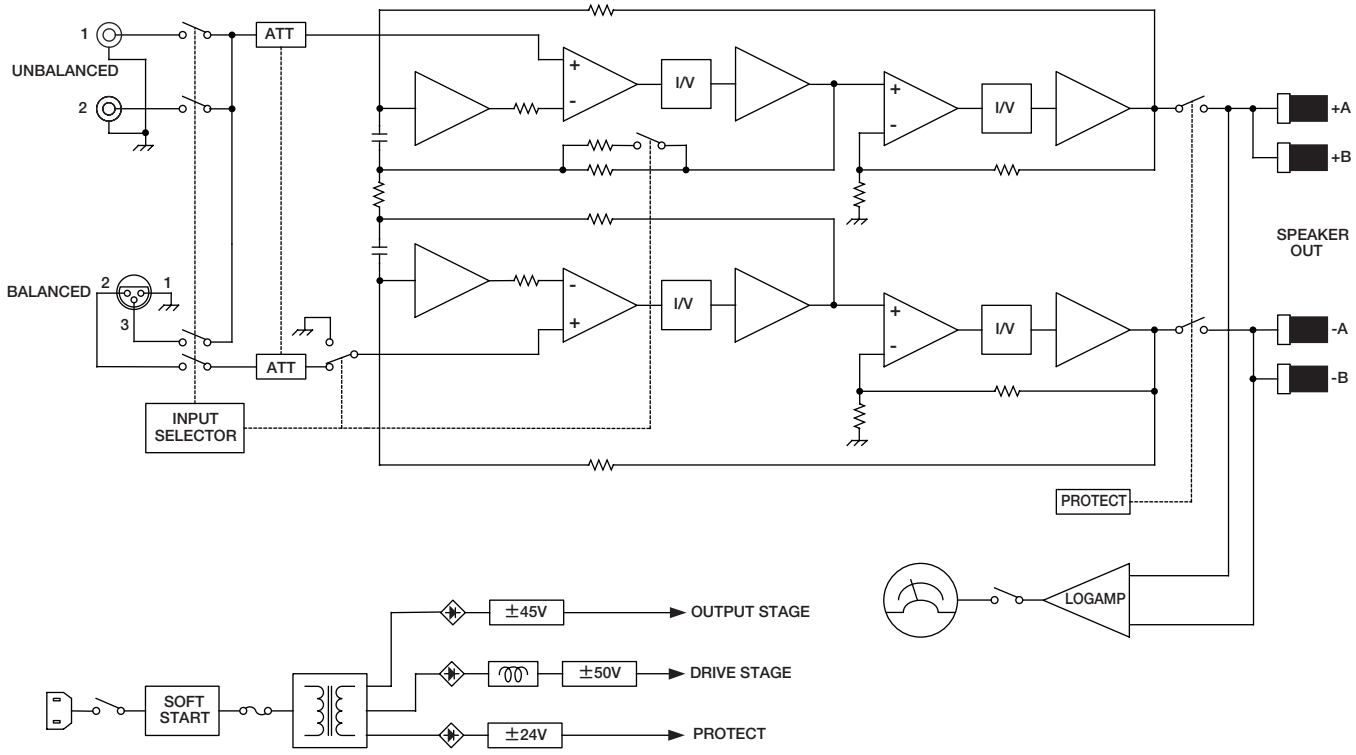
定格出力（20Hz～20kHz）
..... 300 W （8 Ω負荷）
..... 600 W （4 Ω負荷）
全高調波歪率 ..... 0.01%（20Hz～20kHz、8 Ω負荷）
出力帯域幅 ..... 5 Hz～55 kHz（8 Ω負荷、0.05%）
周波数特性（1 W、8 Ω負荷）
..... 3 Hz～ 150 kHz（+0、－3dB）
ダンピングファクター ..... 200（20Hz～20kHz、8 Ω負荷）
入力感度／入力インピーダンス
..... 1.7 V／20 kΩ（BALANCED）
..... 1.7 V／20 k Ω（UNBALANCED）
S／N 比（IHF - A ネットワーク）
..... 123 dB (BALANCED)
..... 123 dB（UNBALANCED）
電圧増幅度
..... 29 dB （BALANCED）
..... 29 dB （UNBALANCED）
アッテネーション ..... 0, -3, -6, -9, -12, - ∞ dB
電源電圧 ..... AC 100V 50／60Hz
消費電力
..... 450 W （電気用品安全法）
..... 1200 W （4 Ω , 600W 出力時）
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）..... 459 × 198 × 451 mm
質量 ..... 37.4 kg

外観寸法図



単位：mm

ブロックダイアグラム



お手入れ

- 本機が汚れた時は、やわらかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を 5 ～ 6 倍にうすめ、やわらかい布に浸し、良く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると、光沢が失われることがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、化学ぞうきんに添付の注意事項を良くお読みください。

ステレオ音のエチケット

- 楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。隣近所に迷惑が掛からないような音量でお聞きください。特に静かな夜間には小さな音でも周囲には良く通るものです。
  窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

故障とお考えになる前に

故障かな？と思いましたらちょっとチェックしてみてください。
意外な操作ミスで故障と思われていることがあります。
下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの当社各営業所、お客様相談センターまたは当社サービスセンターにご相談ください。

★ 電源が入らない

1. 電源ケーブルが確実にAC電源コンセントに差し込まれていますか？

★ スピーカーから音が出ない

1. 前面の INPUT SELECTORで選択している入力ソースが間違っていませんか？
2. 後面のATTENUATORスイッチがー∞になっていませんか？
3. スピーカーコードがスピーカーシステムに確実に接続されていますか？
4. 接続ケーブルがコントロール(プリ)アンプに正しく接続されていますか？
5. コントロール(プリ)アンプの設定や入力ソース選択など間違っていませんか？
6. プレーヤー(再生機)などの使用方法を間違っていませんか？
7. 本機の保護回路が動作している可能性があります。 一度電源を切って1分以上待ってから電源を入れ直してください。

保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。
保護回路が動作すると、メーター内部のパワーインジケーターが点滅し、ミューティング（無音）状態になります。
保護回路は以下の状態などのときに動作します。

■ 電源投入時

電源投入後アンプ回路が安定するまでの約 8 秒間、保護回路が働き、ミューティング（無音）状態になります。この間はメーター内部のパワーインジケーターが点滅します。
その後、アンプ回路が安定すると保護回路を解除し、音が出る状態になります。

■ 過大な電流が流れたとき(過電流保護)

過大な信号が入力され、アンプ回路に過大な電流が流れたときや、インピーダンスが 4 Ω未満のスピーカーを接続して使用したときなどに、過電流を検出して保護回路が動作します。また、誤ってスピーカーコードをショートしたときにも同様に保護回路が動作します。
保護回路が動作するとメーター内部のパワーインジケーターが点滅しますので、パワーインジケーターを確認してください。
保護回路が動作したときは、一度電源を切って 1 分以上待ってから電源を入れ直してください。

■ アンプが過熱したとき

次のような場合はアンプが過熱して保護回路が動作することがあります。

- 天面の通気孔を塞いで使用した場合
- 4Ω未満のスピーカーシステムを使用した場合
- 過大な入力信号で連続使用した場合

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店・お買い上げ日」をご確認の上、販売店からお受けとりいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
   正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の節は、お買い上げ販売店、または当社営業所で保証書記載事項に基づき「無料修理」いたします。

3. 保証期間経過後の修理
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社営業所にご遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度「故障とお考えになる前に」をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社営業所、サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品　名　**モノラルパワーアンプ**
2）品　番　**MA-9S2**
3）お買上げ日　年　月　日
4）故障の状況　（できるだけ具体的に）
5）ご住所
6）お名前
7）電話番号

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30ー12：00　13：00ー17：00
（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社 マランツ コンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.jp

Printed in Japan　　08/2006　00M339J851120　mzh-g